

め、火を浴びて割裂・倒壊。先代住職は翌二十九年に没し、同年現住職就任して本堂を修改築・再建し、井上交泰院家の墓はそのとき改めて現状の位置にまとめた、という。

右の事情は広く知られなかつたためか、都および医史学界の認識を改めるには及ばなかつた。よつて今日まで初代玄徹の墓が従来通り存在するよう誤認されてきたのである。都旧跡の指定は初代玄徹の墓石のみに対してなされたもので、後裔のものはその対象となっていない。そうである以上、今後、旧跡指定の解除はやむを得ぬところである。

(北里研究所附属東洋医学総合研究所・医史文献研究室)

## 北尾春圃伝補遺

安井広迪

『桑韓医談』『提耳談』『当壮庵家方口解』などの著者として知られる北尾春圃の伝記に関しては、今までにあまり正確なものがない。今回、筆者は、岐阜県養老町室原村の福源寺にある北尾家の墓域を調査し、春圃の墓碑銘より、その生没年月日を知ることができたので、その他の若干の資料と共に報告する。

北尾家の墓域は、かつては春圃三昧と呼ばれた別の位置に独立してあったが、大正年間の区画整理の際に福源寺に移された。ここには、春圃をはじめとして、代々の北尾家の人々の墓碑が並んでいる。

春圃の墓碑はその一角にあり、その裏面には次のように刻まれている。

君諱春圃字育仁姓北尾美濃不破人北尾 信広七代之

孫父曰玄甫母鈴木氏万治二年己亥十二月五日生于室

原村玄甫能医君繼其業壯而移于大垣号当壯庵医術大

行名聞遠近戸田侯歳以米給之娶土屋氏 生男五人曰

春竹曰春倫曰道仙曰春達曰春泰道仙先卒孫男三人寛

保元年辛酉八月二十六日以寿終年八十三歳葬于室原

村故田之間 孝子春竹謹識

これにより、北尾春圃は一六五九年十二月五日に生ま

れ、一七四一年八月二十六日に死亡したことがわかる。後

藤良山（やはり一六五九年生まれ）、香月牛山、岡本一抱

などと同世代に属する。

なお、春圃の次男春倫の墓碑もこの墓域にあるが、彼は

京都で没し、建仁寺に葬られたことがわかつている。藪内

家第五代竹心紹智の四天王として知られた人である。

（北里研究所附属東洋医学総合研究所）

## 『回生録』

—近世末期のある医師の診療録—

末田 尚

はじめに

広島県山県郡は、西中国山地の典型的な過疎地で、高齢者率二〇%を越える地域である。郡医師会は「高齢過疎地の地域医療」という今日の問題より出発して、「医療の在り方」「医とは何か」について検討する中で「山県郡医師会史」の編纂を六十一年四月決議し、六月小委員会を発足させ、八月調査に入った。

当郡の医人研究は、呉秀三、富士川游先生等によって始められ、郷土史家名田富太郎先生も郷土史の一環としてされている。更に昭和三十年より町村合併を契機として、新修広島県史、各町村史の編纂がなされ、一部の町村は現在調査編纂中である。しかし医学医療に関しては、断片的なもの又は偉人顕彰の記述のみで、医学医療の流れについて